

昨年四月に高輪中高に赴任し、鉄道については門外漢ながら、鉄研顧問として一年半の時間を部員たちと過ごしてきた。初めての宿泊を伴う鉄研旅行となった春の四国旅行では、中二（当時）の三人のグループに同行した。旅行三日目の自由行動で、徳島駅で昼食に徳島ラーメンを食べてから室戸岬を目指した行程が印象に残っているので、ここに書き記しておく。

①今年一番美しかった桜

J R 牟岐線で海部駅に到着し、そこから甲浦までの三駅は阿佐海岸鉄道の阿佐東線で移動するという。トンネルを抜けてホームに滑り込んできた電車に乗ってみて驚いた。車内の天井や壁、窓がピンクを基調としたLEDライトや桜の造花と白のぼんぼりで飾られていた。深い赤色の座席と、白や淡いピンクの飾りは色味がよく合っていて車内全体が華やかだった。車内ポスターによると、このお花見列車は3月10日～4月15日までの期間限定イベントだそうだ。

我々4人と、鉄道好きらしい大学生風の男性を乗せて、阿佐東線が走り出す。電車がトンネルに入ると、思わず「わあ」と声を上げてしまった。暗闇の中で天井のLEDライトが光り、車内を飾る桜の造花がまるでライトアップされた夜桜のように見えたのだ。

予想外のお花見と高架からの景色を楽しんで終点の甲浦駅に到着すると、駅の待合室で室戸岬に向かうバスを待つことになった。今回の自由行動案を出した部員が、阿佐海岸鉄道は乗客数が少なく経営状態が芳しくないこと、2020年に経営改善と観光客誘致を目指して、線路を走る列車と道路を走るバスを融合したDMVを国内で初めて導入することを教えてくれた。彼は待合室のメッセージノートに「桜のライトアップ、きれいでした。たった3駅でも、その中にたくさんものがありました。これからもDMVになっても、頑張って走り続けてください。また来るので待っていてください。」と書き残しており、その熱いコメントに思わず涙腺がゆるんだ。彼が「先生は若者限定四国フリーきっぷを持っていないから、特急券を買ってください」等と、私が若者（25歳以下）でないことを連呼していた（おそらく悪気はない）のも、水に流すことにする。

今の阿佐東線の姿を見られるのもこれが最後かもしれない。私は待合室を出て、途切れた高架橋上に停車した阿佐東線を見上げた。ヘッドマークに桜の絵と「しだれざくら」の文字を掲げて、わずか三駅の区間、地元民や観光客を乗せて運行する一両だけの白い車体は、堂々とした佇まいだった。経営が苦しくても、将来電車が姿を変えることが決まっても、決して多くない乗客を楽しませようとのお花見列車を企画した人々の心遣いに胸が熱くなる。この旅行中随所で車窓から満開の桜を見たが、この日阿佐東線で見た桜のライトアップが、一番美しく鮮明に心に残っている。

②室戸岬へ

待つこと一時間四十分 (!)、ようやく到着した高知東部交通バスに乗り込んだ。バスはかなりのスピードを出して海岸線すれすれを走っていく。カーブでは海に投げ出されそう。真横を向いて窓の外を眺めていると、頭を進行方向に傾けても後方に傾けても見渡す限り海、海、海。まるで海上を走っているかのようにだった。

普通列車を乗り継ぎ、甲浦駅では一時間四十分待ち続け、バスで海岸線を走り抜け、ようやく室戸岬に辿り着こうとしている。今日初めての観光スポットに心躍る一方で、しかしなぜか、目的地に辿り着いてしまうのが惜しいような、このままずっと岬に向かい続けたいような、不思議な感覚に襲われた。

鉄道ファンではない私は、普段なら、多少値段が高くても一刻も早く目的地に着くために最短ルートを選択する。プライベートな海外旅行や温泉旅行で、「目的地に向かう新幹線や飛行機の時間が一番すばらしかった」などということはおそらく起こりえない。しかしこの時はいつもと時間の流れ方、自分自身の時間の感じ方がまったく違った。鉄研部員たちが観光名所や地元の名物に目もくれずにひたすら電車での移動を楽しんでいるのと同じように、室戸岬に向かう今日の旅の行程そのものをいとおしくかけがえのないものと感じている自分がいた。この時、初めて私は高輪中高の鉄研の正式名称が「鉄道研究部」ではなく、「旅行・鉄道研究部」であることの意味を理解したように思う。

そうして辿り着いた室戸岬は、ちょうど日没が近づいていて、西の方角に目を向けると岩場の向こうにゆっくりと沈んでいく夕陽が見えた。私は波が打ち上げる大きな岩の上によじ登って寄せては返す波を飽きずに見ていたが、同行者たちは、海や夕陽を眺めるのもそこそこに土産物屋を探しに行っていた。いくら目的地までの過程が大事とはいえ、もう少し到着の感動を味わってもいいのでは？！

四泊五日、何かとトラブルの多い旅行だったが、甲浦駅のメッセージノートの件だけでなく、電車内や街中で話しかけてくる大人に対してきちんと受け答えをしたり、さりげなく席を譲ったりという、部員の新たな一面を見ることができたのはよかった。次回の春旅行はどんなドラマが生まれるのだろうか。平和に終わるといいのだが。